

トピックス



令和2年度第1回オンライン合同説明会を開催しました

7月26日(日)に、医学生の皆さんが、本県で医師としてキャリアを形成していくことをサポートするため、『令和2年度第1回オンライン合同説明会』を開催しました。当日は、県内の基幹型臨床研修病院がオンラインシステム「zoom」を使い、各病院の説明や医学生からの質疑に応じました。

説明会には、44名の医学生が参加し、研修医や指導医に質問を投げかける姿がみられました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面での開催を控え、今回初めてオンラインでの開催となりました。今後も当協議会主催でオンライン合同説明会を開催していきたいと考えておりますので、ぜひご参加ください!



県外医学生等出前セミナーについて

当協議会では、県内の研修医や指導医が、県外医学生の住むまちに伺い、県内の最新の研修プログラムについて説明したり、病院見学や、臨床研修のこと、鹿児島での生活についてなど、医学生からの質問についてお答えしたりする「県外医学生等出前セミナー」を開催しています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、訪問することが難しくなっています。そこで、オンラインシステム「zoom」を使い、オンラインでの面談も実施していきます。県外にいながら、研修医や指導医の生の声を直接聞くことができる機会として、お一人でも、ご友人と一緒にでも大歓迎ですので、興味のある方はぜひ当協議会事務局までご連絡ください。

e-mail: iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp
TEL: 099-286-2581



協議会公式 Web サイト開設 !!

鹿児島県くらし保健福祉部医師・看護人材課が当協議会事務局として運営し、皆様に医療情報・各種イベント情報を発信していく公式Webサイトです。

県内の臨床研修病院間の連携強化を図り、「オール鹿児島体制」による魅力ある臨床研修体制を構築・展開し、研修される皆様にサポートしていきます。
公式WebサイトURL ⇒ <https://kagorinsho.jp/>



鹿児島県初期臨床研修連絡協議会 (事務局：鹿児島県庁 くらし保健福祉部 医師・看護人材課)

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1 e-mail iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp

TEL 099-286-2581 FAX 099-286-5928

<https://kagorinsho.jp/>

鹿児島流 熱いハートの医師 育てます



鶴丸城御楼門 (鹿児島市) 写真協力：観光かごしま大キャンペーン推進協議会

私の臨床研修医時代 鹿児島医療センター 院長 田中 やすひろ 康博

出身校 鶴丸高等学校 ▶ 鹿児島大学

私は1983年(昭和58年)に鹿児島大学旧第2内科に入局し、研修が始まりました。当時は大学病院でも診断から治療、時に臨終までと完結する医療が普通でした。原発不明癌と全身転移で積極的治療ができず、対症療法のみとなった患者さんとの思い出です。当然指導医はあまり興味なく、必然的に私の担当になりました。当時、緩和ケアチームによる介入も有りませんでした。疼痛管理、酸素投与そして胸腔穿刺での排液が私の仕事でした。季節感を味わってもらえるように指宿で摘んだ菜の花を病室に飾った事も有りました。こういう事ぐらいしかできない無力さ・むなしさを感じ、落ち込んだものです。亡くなる直前に「先生有難う」と言ってくれて涙。心臓マッサージをしながら涙、涙。臨終を告げて、家族と一緒に涙、涙。情けないほど泣いたことを覚えています。気持ちが入りすぎて自分を見失った頼りない主治医でした。今では恥ずかしい思い出ですが、貴重な体験でした。研修医の皆さんには、その時しか味わえない大きな感動を経験してもらいたいものです。



出身地 鹿児島県

指導医の思い出



ほりのうち しゅうじ 堀之内 秀治 出身校 鶴丸高等学校▶鹿児島大学

勤務先▶鹿児島市立病院
平成5年卒業時、プライマリケア医、総合医を目指し、当時は数少なかった全科ローテート研修を希望しました。最初のローテート先は麻酔科でした。気管内挿管がなかなかうまくいかず、いきなり凹みました。救急センターでは2年目と1年目のペアで準夜帯を、2年目一人で深夜帯を任せられました。救急隊から連絡が入るたびに「何が来るんだ！」と心臓が止まる思いでした。準夜当直後は開放感から飲みに行くこともしばしば。内科研修では、顧問の先生から身体所見のとり方をひたすら反復指導していただきました。与えられた役割をこなすのに必死でしたが、たくさん経験を積むことができました。その後、当時の第三内科納光弘教授の導きで糖尿病の道に進むことになりました。現在、合併症や併存疾患を抱えた糖尿病患者さんと向き合う毎日です。苦しいことから逃げなかった経験が、今も診療の支えとなっています。

出身地 鹿児島市



ほりきり やすし 堀切 靖 出身校 ラ・サール高等学校▶熊本大学

勤務先▶県立始良病院
私は平成元年に熊本大学を卒業し、鹿児島大学精神科に入局しました。小さい頃から馴染んできた、自然科学の思考方法、因果関係の思考方法に飽きてしまい、別な世界、別な思考方法はないものかと考えた時に、精神科に進むことを思い立ちました。しかし、一旦身についた思考方法をかえることは難しく、思い悩む日々が続きました。そんな時、先輩医師から精神病理学の勉強をしようと声をかけていただきました。ヤスパースの精神病理学原論にはじまり、現象学といった哲学までかじりました。その後、自分なりの考えを精神病理学会で発表するなどし、臨床においても、少しずつ自信を持って診療にあたることができるようになりました。あの時に先輩医師に声をかけてもらえなければ今の自分はなかったと思います、自分もそのような存在になりたいと思っています。

出身地 霧島市



おりた ゆうじ 折田 有史 出身校 志学館高等部▶鹿児島大学

勤務先▶鹿児島大学病院
地元の鹿児島で医師となるため、鹿児島大学病院桜島プログラムで研修しました。必死に患者さんと向き合い、何もできない自分を不甲斐なく思うこともありましたが、指導医の先生の言葉に助けられ、少しずつ自信をつけていったことを覚えています。小児医療に興味をもっていました、初期研修期間中の患者さんの出会いと、バリバリ働く産婦人科先輩医師の背中に導かれ、現在は産婦人科医として働いています。初期研修医時代の知識と繋がりは今でもとても大きな財産となり、日々の診療を手助けしてくれています。最近では、初期研修医として繋がった後輩たちが後期研修医以上となって活躍する姿を見ることができ、とても頼もしく感じています。これからも多くの後輩たちの育っていく姿が見られることを楽しみにしています。

出身地 鹿屋市



研修医の声



のざき しゅうへい 野崎 脩平 出身校 ラ・サール高等学校▶鹿児島大学

研修先▶今村総合病院
第114回医師国家試験に合格し、研修医になり早くも5ヶ月が経過しようとしています。今村総合病院は研修プログラムの基本方針として、「将来の専門に係らず医学・医療の社会ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるようにプライマリ・ケアの対応能力を習得すること」を掲げています。この方針に惹かれて、医師人生の良い土台を作るために、いい環境で勉強したいと考え研修先を決定しました。いざ実際に数ヶ月働いてみて、指導医の先生方が勉強会や夜勤当直等を通じてとても熱心に、かつ優しく私達研修医の面倒をみて下さるのを感じ、心からこの病院に入職する事ができて良かったと思っています。長いようで短いこの2年間、後悔の残らないように過ごすことは難しいでしょう。ですが私は後悔の残らない研修をしたいですし、そうであるよう力を尽くすしか無いと考えます。

出身地 鹿児島市



いちまる としみつ 市丸 壽光 出身校 福岡大学附属大濠高等学校▶福岡大学

研修先▶大隅鹿屋病院
私の初期研修を選ぶ最大の希望は、救急の大変な病院で研修したいと思っていました。知人に大隅鹿屋病院の見学を勧められ大隅鹿屋病院に見学に来てみると、程よい救急車搬入件数でした。それ以外で強く感じたことは、研修医と上級医の距離が近く雰囲気がとても良かった事、学生に対して熱心に指導する先生方の姿に、この病院で研修する事で得られるものは多いかもしれない考えるようになりました。しかし、熊本出身で熊本と福岡県以外に住んだことがなかったのと、鹿屋についてほとんど知らなかったし、まさか自分が鹿屋に住む事になるとは思ってもいませんでした。私は将来的には僻地で医療を行っていこうと思っているので、患者さんに寄り添い、かつ様々な病気を診られる医者を目指すには、今は、「とても良い研修病院を選んだ」と、思っています。常に積極的な姿勢を忘れず日々精進して行きたいと思えます。

出身地 熊本県



そはら じゅん 曽原 純 出身校 ラ・サール高等学校▶鹿児島大学

研修先▶南風病院
研修医となって4ヶ月が経過しました。勤務する前は研修医になることに嬉しさがありつつも怖いという気持ちが強かったです。自分は非常に緊張しやすいこともあり、手技に関しては特に不安がありました。実際に最初の採血でも手が震えた上にうまく出来ず、何より今後自分は大丈夫だろうかと不安が増したが、検査技師さんや指導医にそのことを伝えると手技が必要な度に呼んでもらえるようになり、少しずつ成功率は上がり今では自信をもって出来るようになりました。今は先生のご指導のもと患者さんに輸液や薬剤投与をやらせてもらえるようになり、また不安でピクピクしながら勤務する日々が始まりましたが、医師として一人前に近づくためにはこの繰り返しを続けていくことなのだろうと思います。成長出来る今を貴重な時間だと思い日々を過ごしたいです。

出身地 鹿児島市



かい よういちろう 甲斐 陽一郎 出身校 大分東明高等学校▶大分大学

研修先▶鹿児島生協病院
2019年度より鹿児島生協病院で研修医として経験を積ませていただいて早くも1年半が経とうとしています。知らない土地、同期0人という不安しかない状況での研修スタートとなりましたが、辛さや寂しさを感じることもなく現在まで至ることが出来ました。ひとえに鹿児島生協病院の指導環境、スタッフの方々の優しさによる所がとても大きかったと思います。鹿児島生協病院は「研修医のニーズに応えてくれる病院」で基本的手技、CPA対応、抗菌薬、人工呼吸器、透析等の研修医に必須のものからより高度なものまで、自分の意欲と興味に合わせて負荷をかけてくれました。また「他の医師と比較しない」「頑張りすぎない」「逆風の時にも諦めない」「いい時期が来ても調子にのらない」という「4つのしない」を大事にしている病院でもあり精神的にも多くの学びがありました。今後とも研鑽を重ね、少しでも尊敬する先輩医師の方々と同じ土俵に立てるようになりたいです。

出身地 大分県